

1. 調査テーマ

地域教材としての「飯山仏壇」

2. 調査テーマ設定の理由

日本各地には、現在も伝統産業として様々な工芸品の製造技術が受け継がれている。飯山市の飯山仏壇もその一つである。これらの伝統的工芸品は今、職人の高齢化や後継者不足、時代の変化に伴う消費者ニーズの変化など様々な課題を抱えているという。今回、社会調査委員として実際に飯山仏壇の特色を知り、現在直面している課題やそれを克服していくためにどのような工夫をしているのかということ調べるのと共に、中学校社会科のどのような分野や単元で調査内容を地域教材として活用することができるのか追究してみたいと考え、本調査テーマを設定した。

3. 扱う分野と教材化の視点（東京書籍「新編 新しい社会」）

(1) 地理的分野

① 第2編 第3章 4節「中部地方」

北陸地方で伝統産業が勃興した理由について考える中で、飯山市で飯山仏壇が発展してきた背景について気候的な特色と関連付けながら考察していく。

② 第2編 第3章 6節「東北地方」

東北地方の伝統産業がどのような課題を抱え、近年どのような変化を遂げてきたのか知ることを通して、地元飯山の仏壇づくりとの共通点や相違点を調査する。

(2) 歴史的分野

① 第3章 1節「武士の台頭と鎌倉幕府」

鎌倉時代の仏教の特色を理解することを通して、飯山市にある寺院の宗派もその多くが鎌倉時代に民衆へと広まったものである事を知る。また、そのような歴史の中で飯山での仏壇づくりが盛んとなった素地が生まれた事と結び付けて考察する。

(3) 公民的分野

① 第1章「現代社会と私たちの生活」2節「私たちの生活と文化」

文化財保護法に基づき、飯山仏壇がどのように継承され、保存されているのか調査する。

4. 調査のまとめ（教材化のための学習資料）

● 実地調査【飯山市伝統産業会館を訪問して】

本調査を進めるにあたり、飯山市伝統産業会館を訪れ、飯山仏壇事業協同組合の丸山さんより飯山仏壇の特色や現在直面している課題、未来に向けた取り組み等に関するお話を伺った。以下は、それらの調査の結果をまとめたものである。

(1) 飯山仏壇の特色

① 分業制による製造

木地工程・宮殿工程・彫刻工程・塗装工程・鍔金具工程・蒔絵工程・金箔押し工程・組み立て工程などそれぞれの作業を高い技術をもった職人が行っている。また、すべて手造りで造られる飯山仏壇は、分解し、部品を再塗装する「せんたく」も可能となっている。

② 飯山仏壇の特徴



(2) 飯山仏壇の現在と未来に向けて

日本各地にある伝統的工芸品が今抱える課題の一つに後継者不足がある。飯山仏壇もまた、伝統工芸士の資格を持つ職人の数が昔と比べ減ってきているという。そのような中でも、現在近隣の高校で仏壇づくりの体験を実施するなど、次世代へ技術を伝承するための努力も積極的に行っている。また、伝統技術はそのままに、現在のライフスタイルに合わせた仏壇づくりをするなど時代のニーズに合わせた変化にも取り組んでいる。



5. まとめ

今回調査を進める中で、高度な技術の粋を集めて制作されている飯山仏壇の凄さを感じることができた。また、このような技術は後世へ確実に残していかなくてはならないとも感じた。その為には私自身も、社会科教員として生徒たちに地元飯山が誇る飯山仏壇の素晴らしさを伝えていきたい。